

2020年9月15日発行

Vol.86

ろんど

長崎県音楽連盟事務局

〒850-0056 長崎市恵美須町4-5

NBC第3ビル2F

Tel&Fax 095-820-1081

ホームページアドレス <http://www.n-rond.jp>メールアドレス nma@onyx.dti.ne.jp

「世の中を支えることば」

自粛が強く求められる日々の中で、受け止めきれないほどの多くの情報と、心に残るたくさんの「ことば」に出会いました。そして、私はふと思いました。この世の中を引っ張っているのは、次々と発せられる情報かもしれないけれど、世の中をちゃんと支え続けているのは、実は「ことば」ではないかと。今回のろんどは、最近の音楽連盟の活動状況をお伝えするとともに、私が強く心を揺さぶられた「ことば」を、ご紹介したいと思います。

一時期、感染者ゼロが続いていた長崎、その後病院をはじめとして思いがけず多くの感染者が出た不安な日々、そしてまたその数が減少。この数か月、事態は刻々と変化しました。音楽連盟も、自主企画の演奏会が思うように実施できない中で、可能な活動を模索し続けています。6月のアンケート調査結果に基づく要望書の提出に続き、7月の初めには、長崎版の新たなガイドライン策定の要望を、関連機関に提出しました。現在長崎市においては、具体的なガイドラインが示され、各ホールもそれに準じて、細かなルールが公表されています。要望書をまとめるにあたっては、限られた時間の中でしたが、理事、運営委員の皆様が執筆に協力してくださいました。心より、感謝申し上げます。今回、私たちの願いが要望書としてまとまったことに加え、毎晩のように、メールによる意見交換ができたこと、その過程で長崎の文化活動継続に対して、執筆者と想いを共有できたことは、大変有意義でした。要望書の一部をご紹介します。

「長崎市公会堂の閉鎖以降、一流の文化・芸能公演のチャンスが少ない本県なのである。『生活』と『人生』は違う。これは本県とゆかりの深い作家・遠藤周作氏のモットーである。新しい日常の中で劇場がいかにエッセンシャルな存在であり続けられるのか。県・市には是非とも一歩踏み込んだ判断をお願いしたい。」(本田勇二理事)

「芸術・文化は『心豊かに、人間らしく生きていく為に欠かすことができないもの』であり、それを支える重要な要素は中断や停止もない『継続性』です。地域と向き合い、これからも萎縮することもなく、ひとつひとつ丁寧に対応していこうと考えています。」(川崎満博理事)

「行政サイドには、芸術文化振興の在り方に特別な関心と配慮を願いたいと思っております。特に成長期にある青少年若者の文化享受の機会の確保は重要ですし『急』を『要』する課題ではないかと感じております。」(高比良順子理事)

そして、要望書の最後は、調漸会長の次のような言葉で結ばれています。「音楽だから、開催を特別にお願いしたい、と言うものではありません。コロナの時代の真っ只中にいる我々がどう生きるべきかと言う日々の葛藤と過ごし方について一緒に考えてくださいと言うのです。『できる時にできることを迅速にやる』ことが大事だと思います。」

現在、NBCラジオで放送中の「心でつなぐ、音楽のおくりもの」のテーマ曲を提供してくれている、作曲家橋本剛氏は、次のようなメッセージを寄せてくれました。「新型コロナウイルスの脅威は各分野にさまざまな影響を及ぼしており、文化活動ひとつをとってもそれは日々の健康とたしかかな環境あつてのことだと痛感せざるをえません。とりわけ音楽に携わられている方々は合わせの練習や発表の機会を制限されたことで、新たな音楽との付き合い方の模索を迫られており、地域によっては将来の担い手すら失われるおそれも出てきたように感じます。今後、県民の皆様の中でもホールや音楽家、はたまた音楽そのものの存在意義についての意識が大きく変わり、かつて当たり前に行われてきたライブの演奏会がいかに贅沢なものであったかと回顧するような世の中になるのかもしれない。すでにいくつかの個人・団体によってさまざまな取り組みがなされており、かたちを変えながらも今を生きるものとして何かを発信せんとするご努力には敬意を表したいと思います。が、先が見えない中で何ができるのかというのは、実は音楽家だけの問題ではなく、県民の皆様一人ひとりが考えていきたい喫緊の課題でもあるのです。生の音楽・生の歌声が巷から消えている今、まずは皆様の心の中にあるお気に入りの歌を大切にしてください。それら歌の数々が未来を照らす希望の灯りとなりますことを願ってやみません。」

頂戴したメッセージをあらためて読み返して、「ことば」が持つ発信力と力強さを痛感しています。
 <運営委員長 堀内伊吹>